

東京クリニック

医薬品情報

TEL 03-5287-5532

Web <http://www.tokyo-clinic.jp>

Mail info@tokyo-clinic.jp

ダラシン[®]Tゲル1%

Dalacin[®] T Gel

リン酸クリンダマイシンゲル

貯 法：室温保存
使用期限：21ヵ月（最終年月をチューブ・外箱等に記載）

注)注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

承認番号	21400AMY00185
薬価収載	2002年8月
販売開始	2002年9月

【禁忌（次の患者には使用しないこと）】

本剤の成分又はリンコマイシン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

1. 組成

1g中：

成分	販売名	ダラシンTゲル1%
有効成分 (含量)	日局	リン酸クリンダマイシン (10mg (力価))
添加物		アラントイン カルボキシビニルポリマー パラオキシ安息香酸メチル プロピレングリコール マクロゴール400 pH調節剤

2. 性状

本剤は無色澄明で、粘性のある半固形状の製剤である。

【効能・効果】

＜有効菌種＞

プロピオニバクテリウム属及びブドウ球菌属

＜適応症＞

尋常性瘡瘡（多発性炎症性皮疹を有するもの）

【用法・用量】

本品の適量を1日2回、洗顔後、患部に塗布する。

【用法・用量に関連する使用上の注意】

- 本剤を塗布する面積は治療上必要最小限にとどめること。
- 本剤の使用にあたっては、4週間で効果が認められない場合には使用を中止すること。また、炎症性皮疹が消失した場合には継続使用しないこと。
- 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、疾病の治療上必要な最小限の期間の使用にとどめること。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に使用すること）

- 抗生物質に関連した下痢又は大腸炎の既往歴のある患者〔偽膜性大腸炎等の重篤な大腸炎があらわれるおそれがある（「副作用」の項参照）。〕
- アトピー性体質の患者〔重症の即時型アレルギー反応があらわれるおそれがある。〕

2. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エリスロマイシン	併用しても本剤の効果があらわれないと考えられる。	細菌のリボソーム50S Subunitへの親和性が本剤より高い。
末梢性筋弛緩剤 塩化スキサメトニウム 塩化ツボクラリン等	筋弛緩作用が増強される。	本剤は神経筋遮断作用を有する。

3. 副作用

調査症例数308例中、副作用発現症例は25例（8.1%）であり、副作用発現件数は延べ29件であった。その主なものは、臨床症状で痒痒18件（5.84%）、発赤5件（1.62%）等、また、臨床検査値異常では、総ビリルビン上昇1.53%（4/262件）、尿蛋白1.22%（3/246件）、ALT（GPT）上昇0.75%（2/266件）等であった。（承認時までの調査の集計）

(1) 重大な副作用

偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（頻度不明^{注1}）：偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎が報告されているので、腹痛、頻回の下痢があらわれた場合には直ちに使用を中止し、輸液、バンコマイシンの経口投与等の適切な処置を行うこと。

注1：海外での自発報告のため頻度不明

(2) その他の副作用

	5%以上	0.1～5%未満	頻度不明 ^{注1}
皮膚		つっぱり感、バリバリ感	グラム陰性菌毛嚢炎、脂性肌
過敏症	痒痒	発赤 ^{注2} 、蕁麻疹、刺激感、ヒリヒリ感	接触皮膚炎
肝臓		AST（GOT）、ALT（GPT）、AI-P、総ビリルビンの上昇、ウロビリノーゲン陽性	
その他		白血球増加、血小板増加、総コレステロール低下、尿蛋白、尿糖	消化器障害

注1：海外での自発報告のため頻度不明

注2：発赤の誘発又は悪化

4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には使用しないことが望ましい。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

(2)授乳婦

授乳中の婦人には使用しないことが望ましいが、やむを得ず使用する場合には授乳を避けさせること。[皮膚外用に用いたときの母乳中への移行は不明である。]

5. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない（使用経験がない）。

6. 適用上の注意

投与経路

皮膚外用剤として用法・用量にしたがって使用し、眼科用として使用しないこと。

【薬物動態】

吸収・排泄¹⁾

健康成人男子（6名）の背部皮膚に本剤2gを単回塗布した時の血漿中クリンダマイシン濃度は、多くの被験者で定量限界値（13.2 pg/mL）以下であった。また、本剤2gを12時間毎に9回反復塗布した時の塗布後12時間の血漿中クリンダマイシン濃度は、3回塗布でほぼ一定となり、最終塗布後の最高血漿中濃度は平均163.3 pg/mLであった。尿中クリンダマイシン排泄率は単回及び反復塗布のいずれにおいても塗布量の0.01%以下であった。

【臨床成績】

1. 臨床効果^{2)~5)}

多発性炎症性皮疹を有する尋常性痤瘡患者を対象に1日2回、朝・夕洗顔後、患部に4週間塗布した第Ⅱ相適濃度設定試験（二重盲検試験）における有効率（有効以上）は、1%群81.8%（36/44）、基剤群54.0%（27/50）、第Ⅲ相比較試験における本薬の有効率（有効以上）は、72.5%（74/102）であり、炎症性皮疹の減少が認められた。

また、一般臨床試験（12週間）における有効率（有効以上）は、64.9%（37/57）であり、4週間以上の塗布においても、炎症性皮疹の減少が認められた。

2. 皮膚刺激性⁶⁾

本邦パッチテスト研究班の基準に基づき、健康成人男子で傍脊椎側の無傷皮膚表面に本剤及び基剤を用いた単純パッチテスト並びに光パッチテストを実施した結果、本剤の皮膚刺激性の弱いこと、また、光過敏反応を示さないことが確認された。

【薬効薬理】

1. 抗菌作用^{7)~11)}

リン酸クリンダマイシンは生体内で加水分解され、クリンダマイシンとして抗菌力を示す。クリンダマイシンはグラム陽性球菌群、嫌気性菌群及びマイコプラズマ群に対して抗菌力を示し、尋常性痤瘡の病態に関与しているプロピオニバクテリウム・アクネス（及び表皮ドウ球菌）に対して抗菌作用を示す。

2. 作用機序

細菌のリボソーム50S Subunitに作用し、ペプチド転移酵素反応を阻止し、蛋白合成を阻害する。

【有効成分に関する理化学的知見】

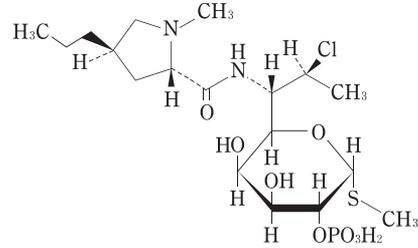
一般名：リン酸クリンダマイシン（Clindamycin Phosphate）

化学名：Methyl 7-chloro-6, 7, 8-trideoxy-6-[(2S, 4R)-1-methyl-4-propylpyrrolidine-2-carboxamido]-1-thio-L-threo- α -D-galacto-octopyranoside 2-dihydrogenphosphate

分子式：C₁₈H₃₄ClN₂O₈PS

分子量：504.96

構造式：



性状：白色～微黄白色の結晶性の粉末である。

水に溶けやすく、メタノールにやや溶けにくく、エタノール（95）にほとんど溶けない。

【承認条件】

国内における本剤の尋常性痤瘡に対する臨床的位置付けをより明確にすることを目的とした市販後臨床試験を行うこと。

【包装】

ダラシンTゲル1%：10g×10（チューブ）

【主要文献】

- 1) 原田昭太郎. 臨床医薬 1999 ; 15 ; 567-82.
- 2) 社内資料.
- 3) 社内資料.
- 4) 社内資料.
- 5) 社内資料.
- 6) 原田昭太郎. 臨床医薬 1999 ; 15 ; 559-65.
- 7) 小野尚子ほか. Jpn J Antibiot 1977 ; 30 ; 1-6.
- 8) 二宮敬宇ほか. Jpn J Antibiot 1973 ; 26 ; 157-62.
- 9) 社内資料.
- 10) 出口浩一. Jpn J Antibiot 1981 ; 34 ; 419-24.
- 11) 駒形安子ほか. Jpn J Antibiot 1998 ; 51 ; 130-6.

【文献請求先】

佐藤製薬株式会社 医薬事業部
〒107-0051 東京都港区元赤坂1丁目5番27号
TEL. 03-5412-7817

発売元

佐藤製薬株式会社

東京都港区元赤坂1丁目5番27号

※輸入元

ファイザー株式会社

東京都渋谷区代々木3-22-7

